

わざを 受け継ぐ

「仙台七夕」を永遠に
七夕飾りの真髄を
未来につなぐ

鳴海屋紙商事株式会社(仙台市)

七夕イベント事業 山村 蘭子さん Rantso Yamamura



49歳のときに
七夕飾り制作の道へ
師匠も先輩もいない中
頼りは自身の感性だった

鳴海屋紙商事で仙台七夕飾り作りの中心となっているのは49歳から携わり、現在89歳の山村蘭子さんだ。今も現役で陣頭指揮を取る。山村さんいわく、仙台七夕飾りの定義として吹き流し、折鶴、短冊、紙の着物、投網、肩かこ、巾着の7つがそろわないと仙台の七夕飾りになりません。ただ一つ戦後、より豪華にと吹き流しにくす玉が付きましたとのこと。



部長 鳴海 幸一郎さん Koichiro Narumi

「先輩も同僚もなく、あったのは作例だけ。それを見ながら、どうやったら作れるのかが、いろいろ試してみました。最初の1年は本当に手探りでした。それでも2年目からは「大体思い通りにできた」というのだからすごい。全部頭に入っているのと、山村さんは優しい笑みを浮かべた。



＜ミニ仙台七夕飾り「浪漫竹(ロマンチック)」は小・中・大が商品化されている。写真は小＞

仙台七夕飾り制作担い
137年を迎えた老舗
伝統を守りつつ
挑戦者精神も忘れない

仙台七夕まつりの起源は仙台藩を開いた伊達政宗公の時代にまで遡る。正宗公は「まれにあふこよひはいかに七夕のそらさへはるるあまの川かせ」と和歌を詠んだと伝えられており、七夕に特別な思いを寄せていたことを窺わせる。江戸時代、仙台藩における七夕まつりは武士のものだった。それが明治時代に入り、町人にも広がった。そして、明治時代より、仙台七夕飾りの制作を担ってきたのが鳴海屋紙商事株式会社だ。和紙をはじめ、紙の卸売事業を展開する七夕飾り関連では、より消費者に七夕飾りが身近になるよう七夕飾りキットなどを商品化。さらに今年も「こちらも和菓子のお舗である株式会社たま(仙台市)とコラボ

レーション。こたまの代表商品であるどら焼きと「七夕飾り制作キット」をセットにした商品を出し、大きな話題を呼んだ。例年、仙台七夕まつりが行われる8月6日から3日間、仙台市の至る所で七夕飾りを見ることができ、特に有名なのは仙台市中心部商店街のそれだ。この仙台市中心部商店街に飾られる約3分の2が鳴海屋紙商事制作のものと言われている。



吹き流しに付けるくす玉は花紙を丁寧に手で切って作る＞



＜仙台 PARCO2の2階入口に飾られていた山村さんが七夕飾り制作の手法で手掛けた「ハルこけし」＞

マニュアル化を推進中
よりよい仙台七夕のため
一層心を砕いていく

今、山村さんに師事し、何とか七夕飾り作りのノウハウを受け継ごうとしているのが鳴海屋紙商事の鳴海幸一郎部長(52歳)である。「今までは品管や、取り付けのほうに力を注いでいたが、いくらか元氣だといつても蘭子さんも高齢です。さすがに、ここ数年少しずつ教える受け付けてきました。今年も七夕まつりが中止になり、それはいいんないいんを見てもらえるので、ある意味良いチャンスですね。怒られながら(笑)、徐々に習得しているところです」

デザインや作り方など、今までは山村さんの頭の中にあるものが全てだったが、それでは制作法が失われてしまふ。後世に残す責任もあるということで、書面に起こしたり、デジタルデータ化したりと、アーカイブができてきている。

「今年も残念だったけど、来年はまた例年通りに戻してほしい。その様子を見て、一線を退きたいね。旅行にも行きたいし」。山村さんがそう話すと、鳴海部長はにっこりと笑顔で応えた。

鳴海屋紙商事株式会社

所在地/本社：〒984-0015 仙台市若林区卸町2-14-5 七夕イベント事業事務所：〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-1-16 6階
代表取締役/数井道憲 資本金/5,200万円 設立/2009年1月26日(創業:1883年) 従業員数/16人
事業内容/七夕飾り制作、情報用紙・紙器用板紙、和紙、家庭紙、その他紙製品の販売、七夕用品の卸売、印刷
TEL 022-221-3451(七夕イベント事業事務所) https://www.narumiya-k.co.jp/



＜デザイン案はかつて全て手書きだったが現在はデジタル化も進む＞